



腎臓専門医の外来がパンクせず、かつ妥当な基準とは？

かかりつけ医—腎専門医への紹介基準 沼松地区CKD病診連携委員会

病期	項目	紹介基準
I CKDの早期発見	年年毎に検尿、血清C-骨質トド様蛋白質比が1.5以上の場合。 特に健診未受診の方のCKD早期発見を目的。	I かかりつけ医—腎専門医への紹介の基準
II CKD	蛋白尿单独、血尿伴う蛋白尿でGFR<60 mL/min以下 (腎機能は問題ない)。 またはスポート尿で尿蛋白/尿C-比が3以上の場合。 尿蛋白質低下	II かかりつけ医—腎専門医への紹介の基準
III 糖尿病性腎症	蛋白尿出現時 CKD第3期 (特にGFR49 mL/min以下) 以降。 定性で尿C-陽性。	III かかりつけ医—腎専門医への紹介の基準
IV 代償性腎不全	腎存続 CKD第3期 (特にGFR49 mL/min以下) 以降。 急性進歩性腎不全	IV かかりつけ医—腎専門医への紹介の基準
V 急速進行性腎炎	急速に血清Cr値が上昇する例	V かかりつけ医—腎専門医への紹介の基準

*血清Cr値は、60才の男女MDRD式使用。日本人の補正係数0.741を使用での確定GFR値から計算

